

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4572000513		
法人名	特定非営利活動法人あおぞらの会		
事業所名	グループホームあおぞら		
所在地	宮崎県児湯郡都農町大字川北18922-3 (電話) 0983-21-2602		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成22年2月17日	評価確定日	平成22年3月18日

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

見晴らしの良い高台で民家の一角にあり、デッキからは海を見渡せる等、自然豊かで穏やかにゆったりと過ごすことのできるホームである。職員は、利用者と目線を合わせ思いに寄り添い、ゆったりと一緒にくつろぐことを念頭に、日々のケアに努めており、利用者の穏やかな表情にそれをうかがい知ることができる。また、地域との交流にも積極的に取り組んでいる。

## 【重点項目への取組状況】

### 【情報提供票より】 (平成22年1月21日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤3人, 非常勤5人, 常勤換算7人	

#### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,750 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,050 円	

#### (4) 利用者の概要(平成22年1月21日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名	
要介護1	2	要介護2	2			
要介護3	3	要介護4	1			
要介護5	1	要支援2	0			
年齢	平均	85歳	最低	70歳	最高	94歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人杏林会三股病院
---------	-------------

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	災害対策における支援体制、運営推進会議のあり方、消防団との連携等、改善計画シートを作成し前向きに取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員全員で話し合い、意見を出し合ってまとめられている。評価を日々のケアの振り返り、気づき、反省の機会として受け止め、サービスの質の向上へ生かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	事業所の現状報告、利用者の日々の生活の様子、ホーム便りの配布、自己評価、外部評価の取り組み状況の説明をし、意見、アドバイスをもらいサービスの質の向上に生かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情受付窓口を明記するとともに、来訪時に声掛け意見が出しやすいよう配慮をしている。また、家族の代表に意見が反映できる体制が出来ており、意見、要望はすぐに話し合い運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、敬老会、グランドゴルフ等、地域の行事へ参加したり、保育園への訪問を行っている。また、敬老会、夏祭りなどホームの行事へ招待するなど、日々の生活の中で地域と連携している。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割を盛り込んだ事業所独自の理念を、全職員で話し合い作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念を共有し日々の中で話し合いながら、理念の実践に向け取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として自治会に加入し、行事等の地域活動に参加することはもとより、ホームの行事にも参加してもらうなど、地元の人々と交流することに努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で話し合い、意見を出し合いながら取り組み、管理者がまとめている。自己評価を振り返りの良い機会ととらえ、具体的な改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの現状報告、利用者の日々の様子、外部評価等の報告や話し合いを行い、出された意見、アドバイスをサービス向上に活かしている。	○	運営推進会議は充実した内容で開催されてはいるが、年4回の開催にとどまっている。2か月に1回以上の開催の検討をお願いしたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の担当者や地域包括支援センターへ電話にて相談する等、連絡を取っており情報提供等を通じ、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会やホーム便りにて、暮らしぶりや健康状態の報告をしている。金銭管理も定期的に報告がなされ、日付、確認印もある。また、個々にあわせ電話での連絡もしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に声かけし、意見等を聞き取る配慮をしている。また、家族の代表者に意見をくみ上げてもらうような体制作りが出来ており、それらを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在は離職者もなく、なじみの関係作りが出来ている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外の研修の機会が多くあり、計画的に受講している。研修参加後は、職員会で発表し共有している。働きながらトレーニングしていくことを勧め、質の確保に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの連絡協議会での勉強会や、同業者との情報交換、相互訪問をすることで、質の向上へつなげている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の見学でホームの雰囲気を感じてもらい、その上で納得のいく利用につなげている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者を人生の大先輩であるという考えを共有している。保存食作り、針仕事など色々な場面で教えてもらうことが多く、喜怒哀楽を共にし支えあう関係作りが出来ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望をくみ取るケアを心がけ、利用者に寄り添いながら本人本位に検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見要望を聴き取り、計画作成担当者を中心に、職員の気づきを取り入れ、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	アセスメントを含め職員全員で意見交換や、月2回のモニタリングを行い、現状に即した計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理美容、病院受診、季節に応じた外出支援等、本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望で、納得のいく掛かりつけ医の受診をしており、月に1回は協力医の定期回診もしてもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	できるだけ早い段階から、家族、掛かりつけ医と話し合い、全員で方針を共有している。今回、ホーム内で重度化した利用者の看取りを家族総意の下、協力して行った。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの利用者に対する言葉掛けや対応には配慮しており、記録等の個人情報についてもきちんと管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、思いに寄り添った支援がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、それぞれが出来ることを手伝い、家庭的な雰囲気の中で、同じテーブルを囲み同じ食事を取り、さりげないサポートを受けながら楽しむものとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調等、状況に応じて支援している。できるだけ本人の希望にあわせており、入浴拒否の利用者に対しては足浴等の対応をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人が得意とされていたことを日々発見し生活に取り入れており、最近はお茶会を開いて皆で楽しんでいる。また、外出等で気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望、天候、体調にあわせ、日光浴、散歩、買物やドライブ等の支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵は掛けないで見守りをしている。外出傾向のある利用者には一緒に同行している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行っており、夜間を想定した話し合いも行っている。マニュアルも完備され、冬場は消防の見回り時に立ち寄ってもらっている。3月には火災報知機、直通電話の設置予定である。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量はきちんと把握されている。また、栄養バランスにも配慮している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感、季節感が取り入れられており、テーブルには、庭先の花や季節の花が飾られている。くつろぎのソファではそれぞれがゆったりと過ごしており、居心地良く過ごせるための配慮がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、なじみの物が持ち込まれ、畳を敷き込んだりと、それぞれに本人が居心地良く過ごせる工夫がされている。		

※  は、重点項目。